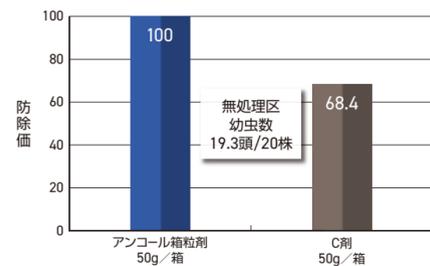


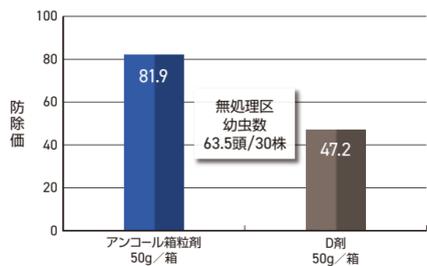
▶ 新農薬実用化試験成績

▶ トビイロウンカに対する効果



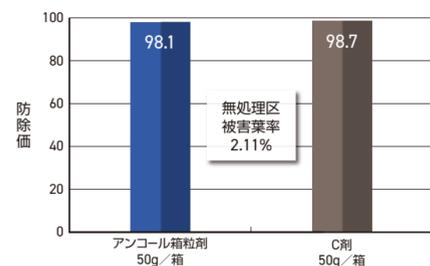
平成27年 日本植物防疫協会 宮崎試験場
品 種：ヒノヒカリ
区制面積：107㎡(6.9m×15.5m)、連制なし
播 種：6月6日 移植：6月29日
処 理 日：6月29日(移植当日) 発生状況：少発生
調 査 日：9月28日(移植91日後)
調査方法：20株×3か所について払落し、幼虫数を調査。

▶ ヒメトビウンカに対する効果



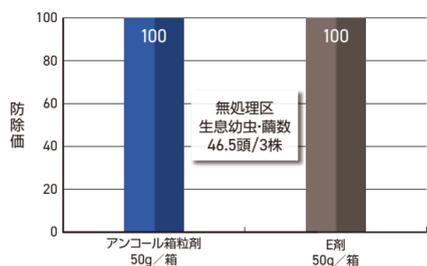
平成28年 熊本県農業研究センター生産環境研究所
品 種：森のくまさん
区制面積：1区90㎡(6m×15m)、2連制
播 種：5月16日 移植：6月16日
処 理 日：アンコール箱粒剤：6月13日(移植3日前)
B剤：6月16日(移植当日)
発生状況：中発生 調 査 日：8月1日(移植46日後)
調査方法：各区30株×2連制について払落し、幼虫数を調査。

▶ コブノメイガに対する効果



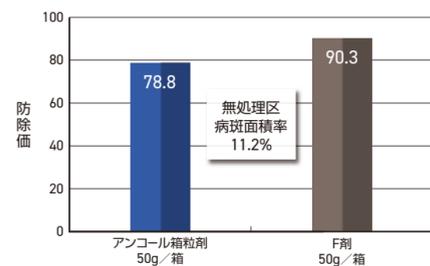
平成27年 日本植物防疫協会宮崎試験場
品 種：ヒノヒカリ
区制面積：107㎡(6.9m×15.5m)、連制なし
播 種：6月6日 移植：6月29日
処 理 日：6月29日(移植当日) 発生状況：中発生
調 査 日：9月10日(移植73日後)
調査方法：100株×3か所について上位1葉の被害率を調査した。

▶ イネミズゾウムシに対する効果



平成28年 日本植物防疫協会茨城研究所
品 種：コシヒカリ
区制面積：1区 64.8㎡(3.6m×18.0m)、2連制
播 種：4月11日 移植：5月10日
処 理 日：5月7日(移植3日前) 発生状況：多発生
調 査 日：6月22日(移植43日後)
調査方法：各区2か所×3株×2連を掘り取り、根圏部位の幼虫・蛹数を調査した。

▶ 葉いもちに対する効果



平成27年 岡山県農林水産総合センター農業研究所
品 種：関東90号
区制面積：1区 36㎡(3.6m×10m)、3連制
播 種：5月29日 移植：6月16日
処 理 日：6月16日(移植当日) 発生状況：甚発生(接種)
調 査 日：7月29日(移植43日後)
調査方法：各区20株×3連制について全病斑数及び程度別病斑株数を調査した。



■ 適用病害虫と使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	トリフルメソピリムを含む農薬の総使用回数	トリシクラゾールを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病 ウンカ類 イネミズゾウムシ イネドロオウムシ コブノメイガ ニカメイチュウ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当たり50g	移植3日前 ～ 移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	1回	1回	4回以内 (育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)

【使用上の注意事項】

- 所定量を育苗箱中の苗の上から均一に散布してください。なお、葉に付着した薬剤は軽く払い落としてください。
- 育苗箱の土壌表面が乾燥していて苗を田植え機にのせる際、薬剤が落下するおそれがある場合は散布後葉に付着した薬剤を払い落とす後軽く灌水してください。
- 軟弱徒長苗、老化苗、むれ苗などでは葉害を生じるおそれがあるので使用をさけてください。
- 本田の整地が不均整な場合は、葉害を生じやすいので代かきは丁寧におこない、移植後田面が露出しないように注意してください。
- 移植後、低温が続く苗の活着遅延が予測される場合、あるいは移植後極端な高温(30℃以上)が続くと予測される場合は、葉害を生じるおそれがあるので使用をさけてください。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意してください。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

本資料は2019年2月現在の知見に基づいて制作しております。

● 使用前にはラベルをよく読んでください。● ラベルの記載以外には使用しないでください。● 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。● 防除日誌を記載しましょう。

1659(19-2)



自然に学び 自然を守る
クミアイ化学工業株式会社
本社：〒110-8782 東京都台東区池之端1-4-26 TEL.03-3822-5036
ホームページアドレス http://www.kumiai-chem.co.jp

水稲 殺虫・殺菌剤/育苗箱施用剤

アンコール®
ENCORE



powered by PYRAXALT™ RYNAXYPYR®
ACTIVE INGREDIENT

®が付記された表示は、デュポン、ダウ、アグロサイエンスもしくはバイオニアならびにこれらの関連会社または各所有者の商標です。RYNAXYPYR®、リナキシビル®は、FMC Corporationまたはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。アンコール®はクミアイ化学工業(株)の登録商標

▶ 特長

■ ウンカ類に卓効を示す新規有効成分ピラキサルト™（一般名:トリフルメゾピリム）を配合。

新しい作用性により、既存薬剤に抵抗性を示すウンカ類にも高い効果、長い残効性を示します。ピラキサルト™の高い防除効果でヒメトビウンカによるイネ縞葉枯病の媒介を抑制します。

■ リナキシピル®により初期害虫、チョウ目に高い効果を示します。

■ ビーム™により移植初期からいもち病の稲体への侵入を強力に阻害します。



トビイロウンカ ヒメトビウンカ コブノメイガ イネミズゾウムシ いもち病

▶ 有効成分と物理化学的性状

商 品 名：アンコール箱粒剤
 農林水産省登録：第24134号
 開 発 コード：KUM-1502箱粒剤
 種 類 名：クロラントラニプロール・トリフルメゾピリム・トリシクラゾール粒剤
 性 状：類白色細粒



有効成分	クロラントラニプロール	トリフルメゾピリム	トリシクラゾール
含有量	0.75%	0.75%	4.0%
化学名	3-プロモ-N-[4-クロロ-2-メチル-6-(メチルカルバモイル)フェニル]-1-(3-クロロピリジン-2-イル)-1H-ピラゾール-5-カルボキサミド	3,4-ジヒドロ-2,4-ジオキソ-1-(ピリミジン-5-イルメチル)-3-(α,α,α -トリフルオロ-m-トリル)-2H-ピリド[1,2-a]ピリミジン-1-イウム-3-イド	5-メチル-1,2,4-トリアゾロ[3,4-b]ベンゾチアゾール
構造式			
分子量	483.15	398.34	189.24
水溶解度(20℃)	1.023mg/L	230mg/L	596mg/L

▶ 安全性

■ 製剤安全性

人畜毒性(製剤):普通物(毒物・劇物に該当しないものを指していう通称)

急性経口	ラット♀	>2000mg/kg
急性経皮	ラット♂♀	>2000mg/kg
皮膚刺激性	ウサギ	軽度
眼刺激性	ウサギ	軽度
皮膚感作性	モルモット	感作性なし

■ 水産動植物への影響

魚類急性毒性	コイ	813mg/L
ミジンコ類急性遊泳阻害	オオミジンコ	0.0292mg/L (48h)
藻類生長阻害	緑藻	>1000mg/L (72h)

▶ 作用機構

ピラキサルト™（一般名:トリフルメゾピリム）

■ 作用機構と活性

ピラキサルト™は新規の作用機構を持つメソイオン系殺虫剤です。IRAC(殺虫剤抵抗性対策委員会)の分類ではグループ4の新サブグループである4Eに分類されている唯一の成分です。グループ4の殺虫剤は害虫の神経伝達物質・アセチルコリンの受容体であるニコチン性アセチルコリン受容体(nAChR)に作用しますが、サブグループにより作用性は異なります。

害虫は正常状態では神経伝達チャンネルを開閉しイオンを適量透過させることで神経伝達を行っています。グループ4Aのネオニコチノイド系殺虫剤は受容体チャンネルを開いた状態でロックし異常興奮を引き起こすのに対して、グループ4Eのピラキサルト™は受容体チャンネルを閉じた状態でロックし脱感作(昏睡)状態を引き起こします。ネオニコチノイド系殺虫剤抵抗性の一因である解毒酵素は、新規化合物であるピラキサルト™に影響を示さないことが確認されています。そのため、ピラキサルト™は既存薬剤抵抗性ウンカにも効果を発揮します。

グループ4: nAChR 拮抗モジュレーター

4A: ネオニコチノイド系
4B: ニコチン
4C: スルホキシミン系
4D: プテナロイド系
4E: メソイオン系(ピラキサルト™)

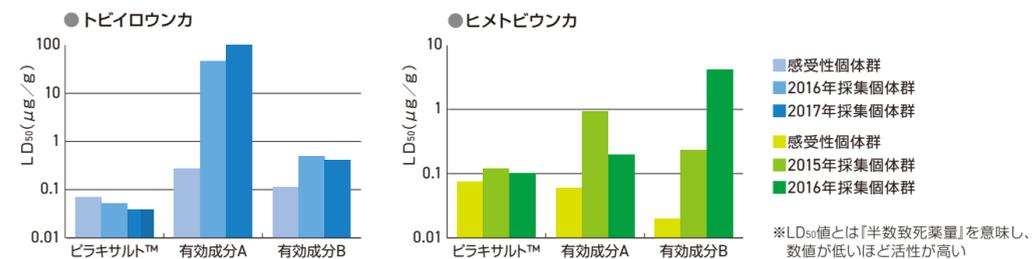
▶ ニコチン性アセチルコリン受容体への作用



■ 既存薬剤抵抗性ウンカにも高い効果

ウンカ類に対する感受性検定試験では、薬剤感受性低下が確認されている個体群に対しても、ピラキサルト™は感受性個体および抵抗性個体の両方にほぼ同等の薬量で殺虫活性を発揮することが確認されました。

▶ 殺虫剤抵抗性のウンカ類に対するピラキサルト™の殺虫活性(JA 全農営農・技術センター)



トビイロウンカに対する効果(社内試験)

試験場所：クミアイ化学工業(株)生物科学研究所
 供 試 虫：トビイロウンカ(2016年佐賀県採集個体群)
 供試作物：イネ(キヌヒカリ)、2018年1月26日移植
 供試薬剤：アンコール箱粒剤、50g/箱相当量を移植当日処理
 放虫条件：移植34日後から69日後まで、約7日おきにトビイロウンカ成虫(雌5頭、雄2頭/株)をグロースチャンパー内に放虫

無処理区のイネがほぼ枯死するグロースチャンパー内の連続放虫条件下において、薬剤処理区ではトビイロウンカの増殖がほとんど認められなかった。



トリシクラゾール

いもち病菌が植物体に侵入する際、重要な働きをするのがメラニンです。トリシクラゾールは、いもち病菌のメラニン生成を阻害することにより、いもち病菌の稲体への侵入を極めて強力に阻害します。この他、いもち病菌の孢子形成の抑制や孢子そのものの病原力の低下にも強い作用を示し、いもち病を防除します。



リナキシピル®（一般名:クロラントラニプロール）

リナキシピルは昆虫の筋収縮を誘発するジアミド系殺虫剤です。コブノメイガなどのチョウ目害虫をはじめ、さまざまな害虫に対し高い活性と長期残効性を示します。

【作用機作】

筋肉細胞の筋小胞体は細胞内のカルシウムイオン濃度を調整することにより筋肉の収縮・弛緩をコントロールしています。リナキシピル®は筋小胞体のリアノジン受容体(RyR)に結合して筋小胞体内のカルシウムイオンを細胞内に放出させます。その結果、昆虫は筋収縮を起こし速やかに活動を停止し、死亡します。

